

雪國

yukikuni

彼女

えっちな

就活

ヤ

しかねえ!

1

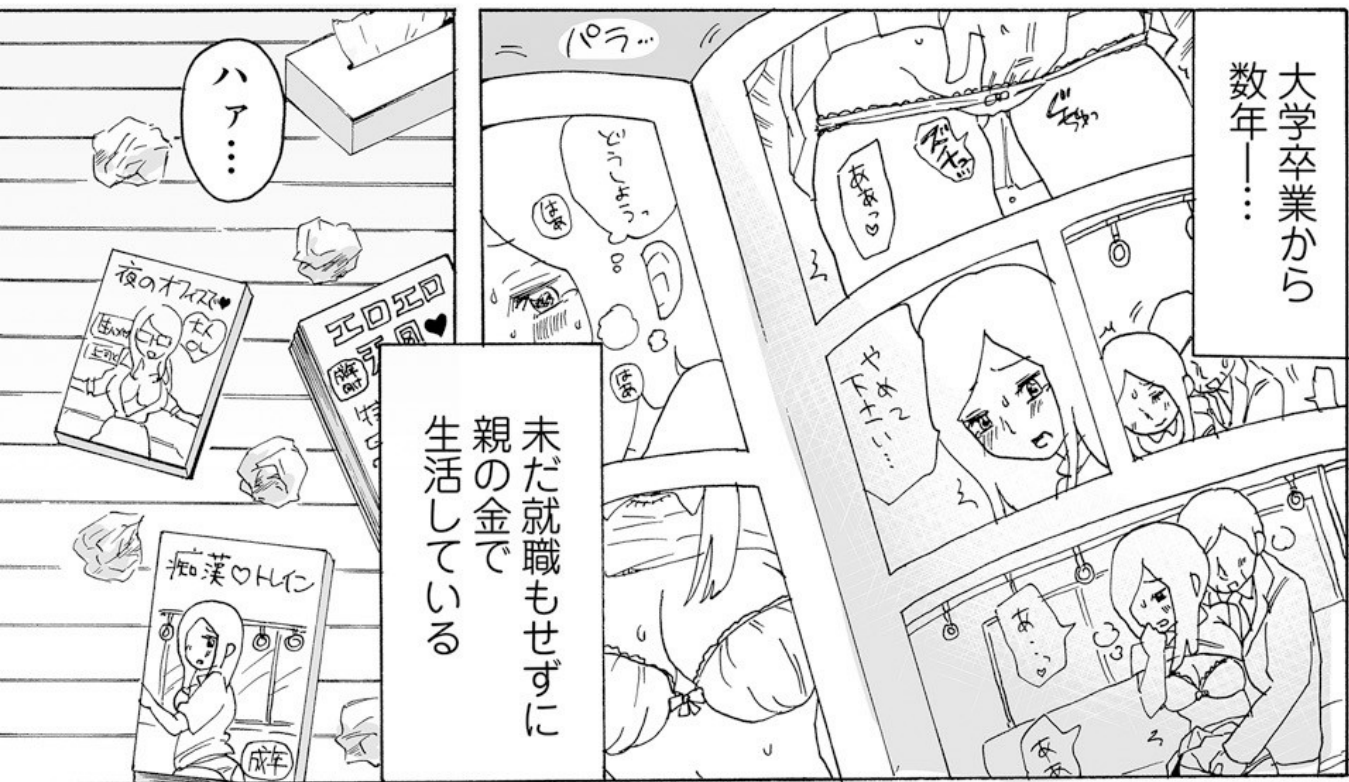
やるしかねえ！
～彼女とのえっちな就活～

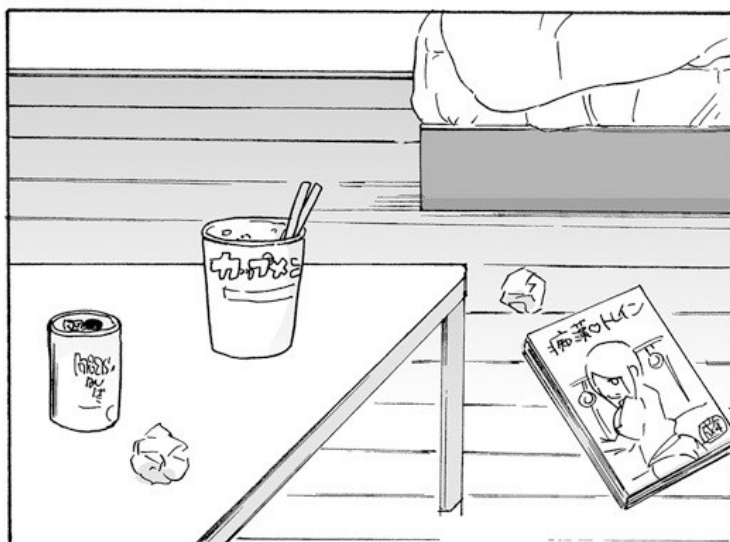
第1話

本作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、一切関係ありません。







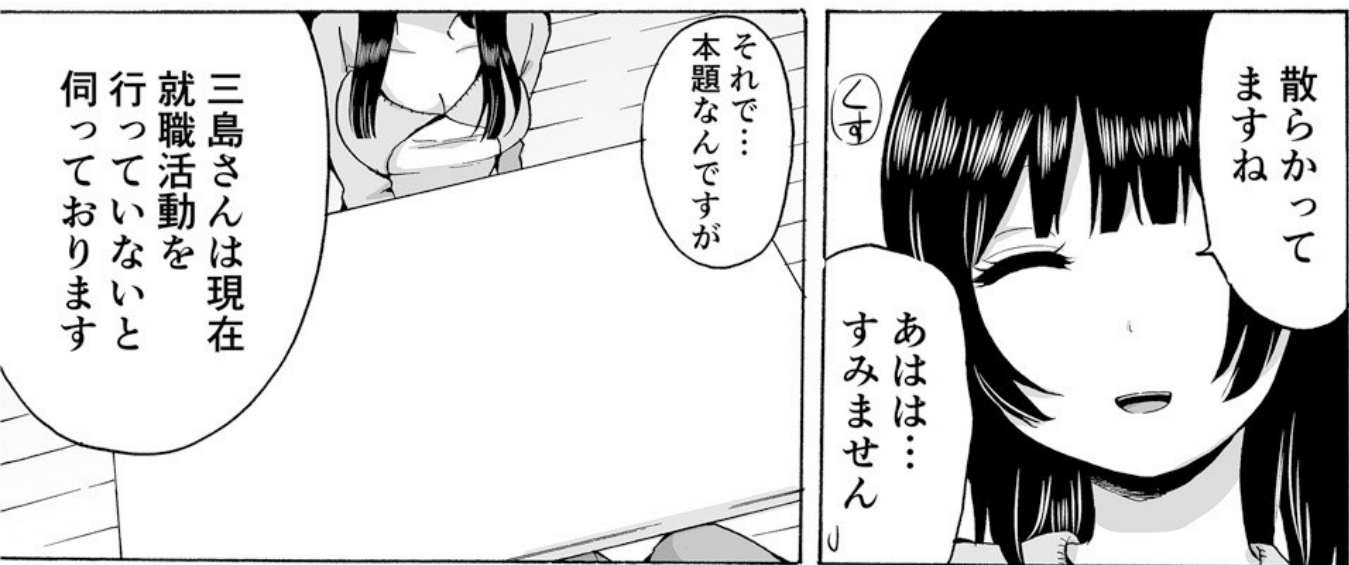




美人に釣られて
通しちゃったけど…

部屋汚ねえ—

!!
エロ本だしっぱ…



散らかって
ますね

くす

あはは…
すみません

それで…
本題なんですが

三島さんは現在
就職活動を行
っていないと
伺っております



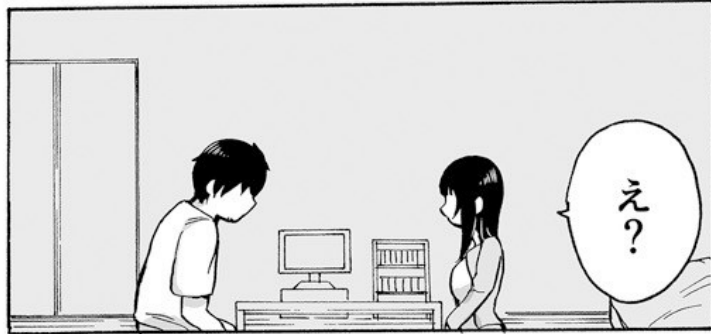
理由を
お聞き
しても…?

…わから
ないんだ

人生の目的も
楽しみだって
何も無かったから

ハア…
また「働け」って
怒られんのかな…

今までだって
ずっと…





えっ

ぐい

ぽよん

ぬぎっ

もし就活を
頑張れたら...

スッ...

柊さん!?

私が

あなたに
エッチなご褒美を
差し上げます







良いんですよ…
三島さん

勢いがあるって
大切なこと
なんです

へ…



臆病にならず
やってみることが

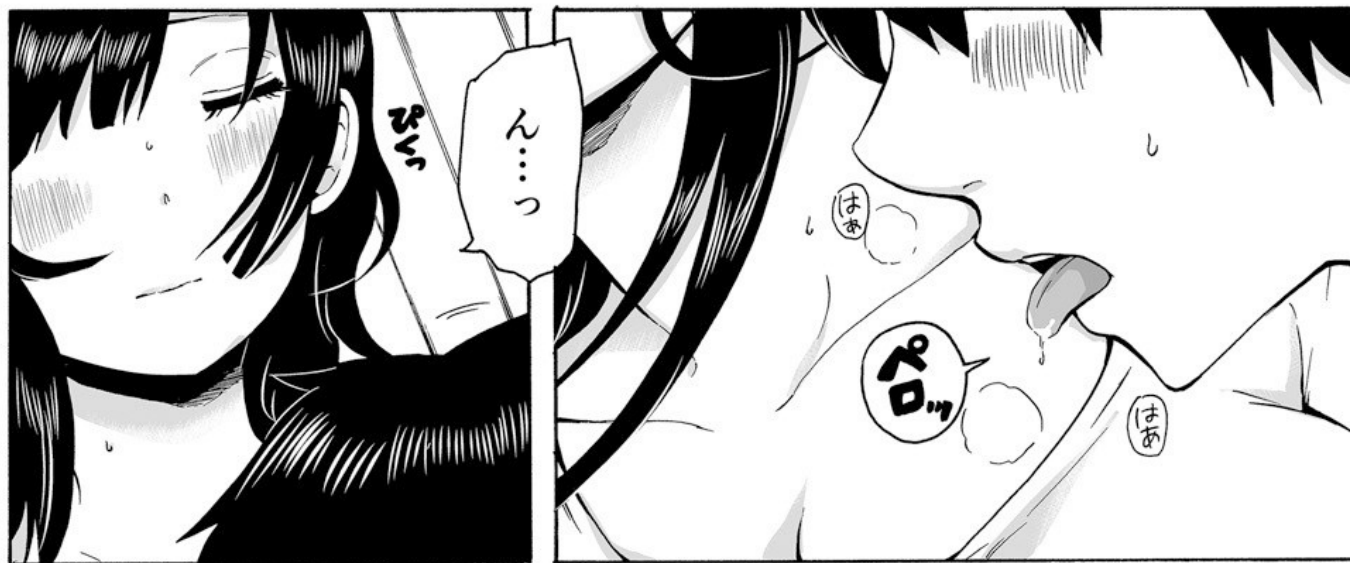
一番大切でしょ？

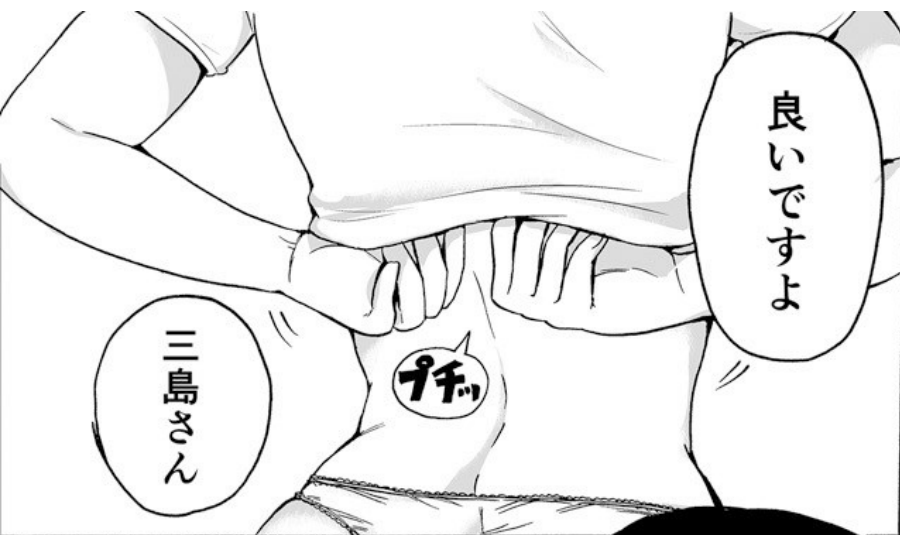


くるみさん
……

ドキッ







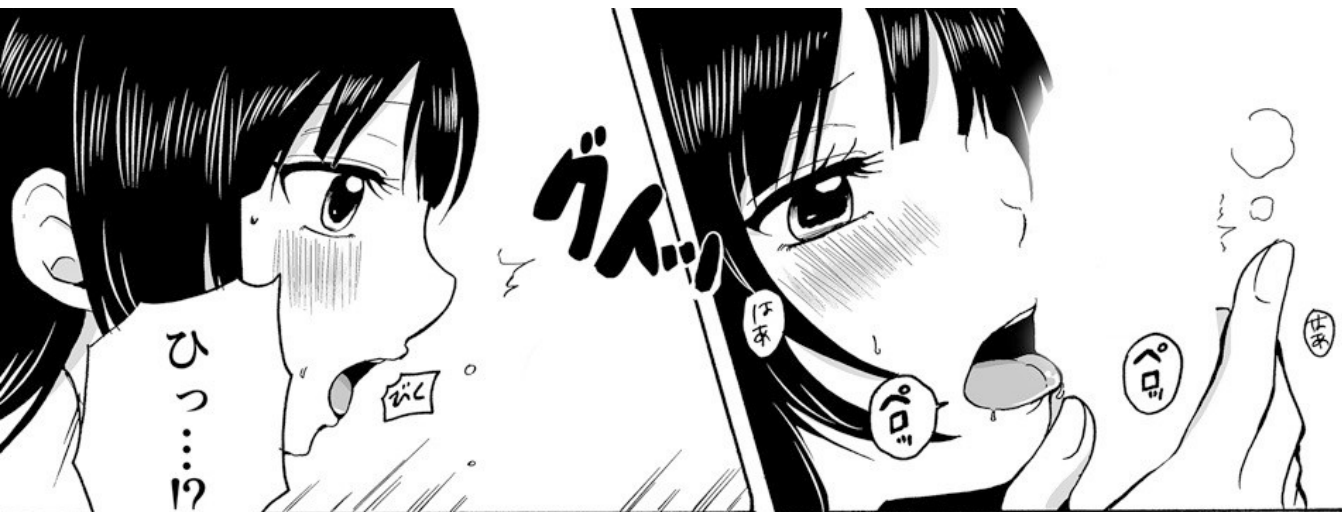






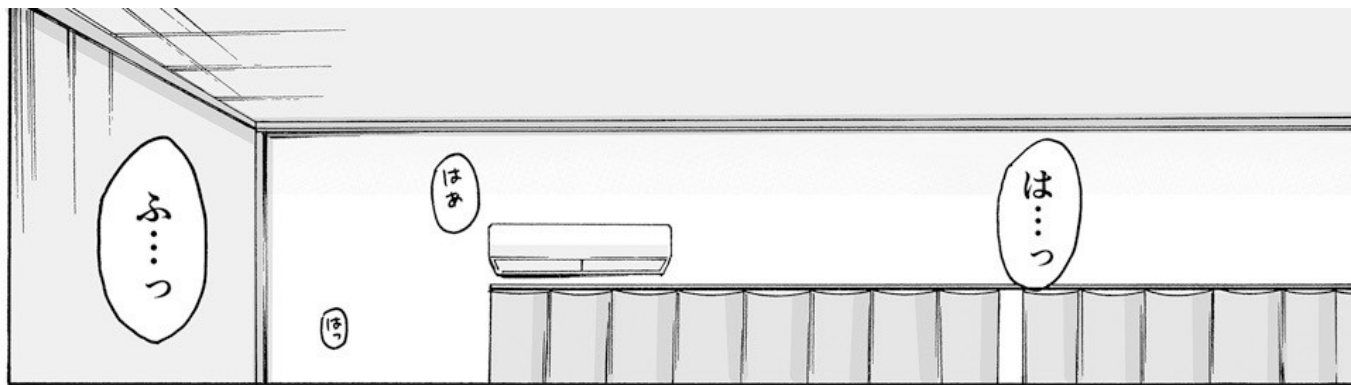
















やるしかねえ！ (1)

～彼女とのえっちな就活～

著者：雪國 発行：株式会社 六式

●本書の無断転載・複製等は著作権法上の例外を除き、
如何なる媒体においても禁止されております。

雪國

yukikuni

彼女

えっちな

就活

ヤ

しかねえ!

2

やるしかねえ！
～彼女とのえっちな就活～

第2話

本作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、一切関係ありません。

では
志望動機を
お聞かせください

キラッ

ハイ

御社を志望した
理由は……

自己PR
を……

えっ

えーと

私の
強みは……

……

はあー
疲れた……

ちよつと
休憩

だらあ……

おつかれ
さまです

ねえ

……

練習頑張った
けど……

ご褒美
くれないの？

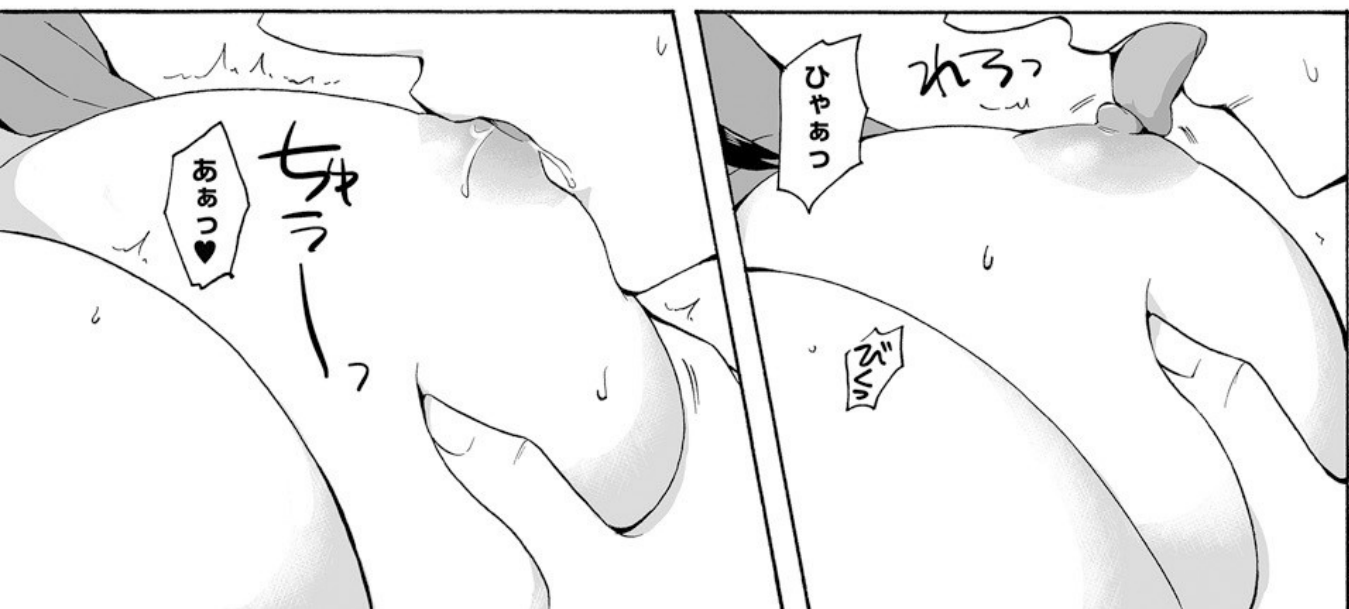
じり……

……！



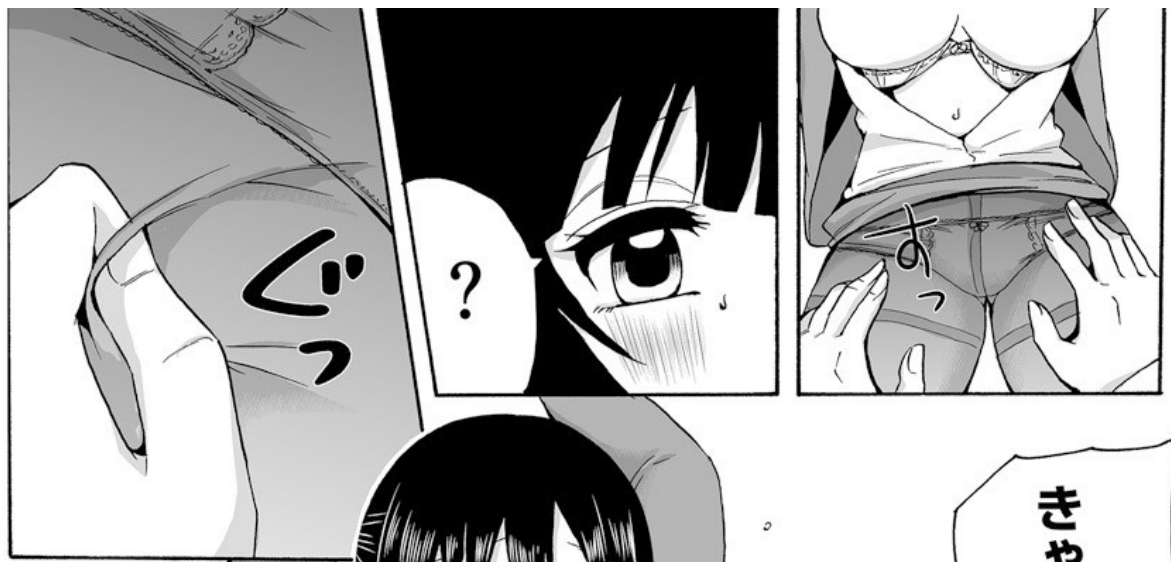




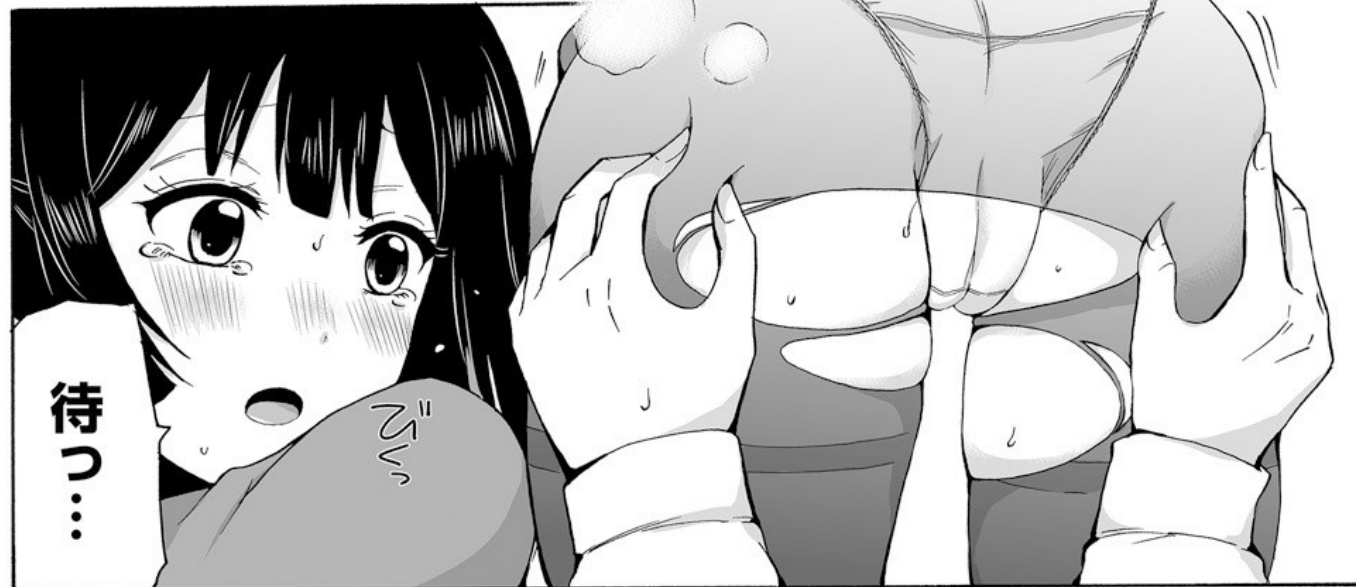




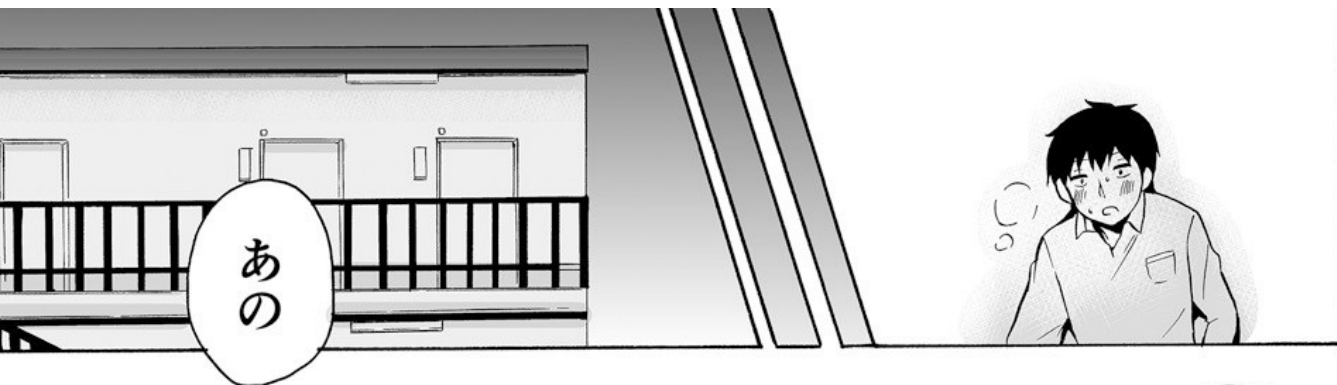








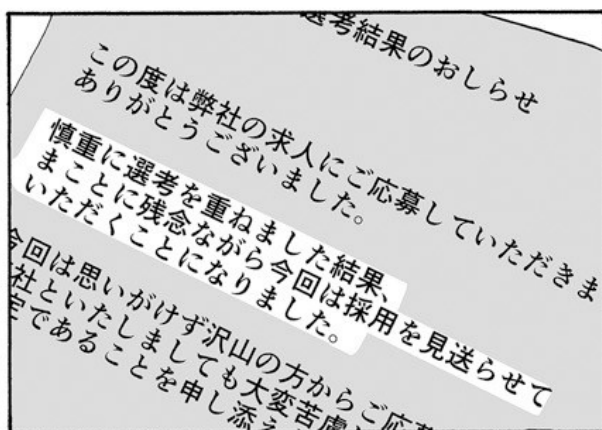








三島め...



だから
次こそは
慎重につて...

そしたら
今じゃ
これだよ

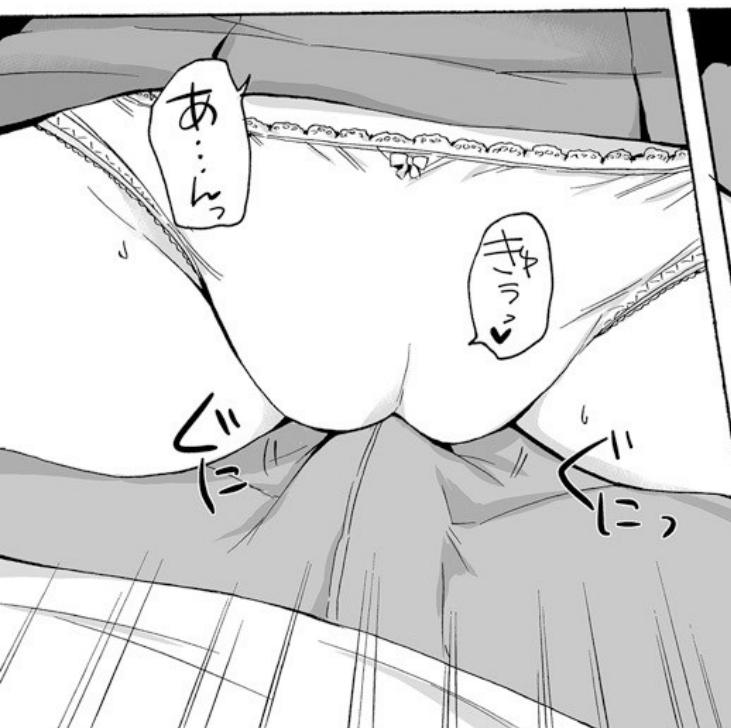


いつも

後悔するのが
嫌だったんだ...

後先考えず
動いちゃうのが
俺の癖だけど
いつも後悔する





くるみさんが
俺のに
腰をすりつけて…



ああ…っ♡

感じてる…





！：
なの？

えっ？



ホ
ッ！

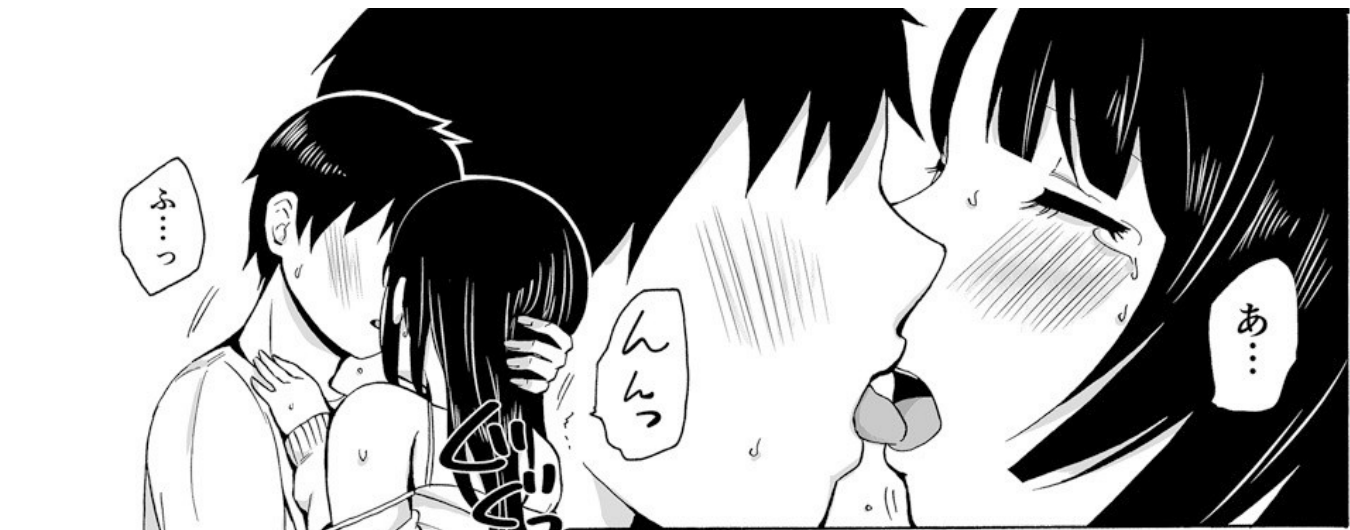


私と
こういうこと
するの？

ホ
ッ！

いつか後悔
しちゃうの…？







変わりたいと
思えたんだ

そして
くるみさん
をー…

ブンッ

あれ

そういえばさっき
「いつかまた」って…

?

俺くるみさんの話
忘れちゃったこと
あったっけ…?

…あの

カア…

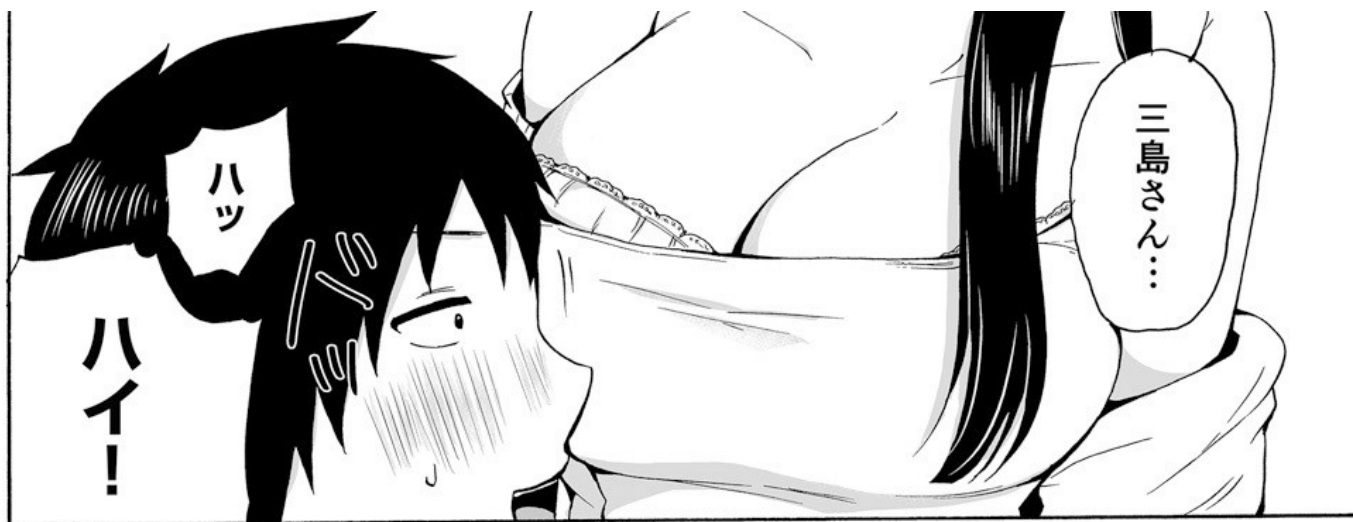
三島さん…

ギクッ

当たてるん
ですが…

!!

ムフッ♡



やるしかねえ！(2)

～彼女とのえっちな就活～

著者：雪國 発行：株式会社 六式

●本書の無断転載・複製等は著作権法上の例外を除き、
如何なる媒体においても禁止されております。

雪國

yukikuni

彼女

えづち^{との}

就活^な

ヤ

しかねえ!

3

やるしかねえ！
～彼女とのえっちな就活～

第3話

本作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、一切関係ありません。

あれから
就活は順調

おお……！

CONY
Sub 最終面接のご案内
二次面接通過のお知らせ
先日は弊社採用選考へ参加いただき
心より感謝申し上げます。
厳正な審査の結果、三島様は二次試験に
合格されましたので
最終面接を受けていただきたく
ご案内いたしました。

ついに
二次通過……！

やりましたね
三島さんっ

……あっ

ご褒美ですね

そして俺の
くるみさんへの
想いも

日に日に
募っていった



いつか
このくちづけも



本物に
することが
できたら…

だなんて

そして

ガァァァ...

最終面接日
前日…

気分転換に
散歩でも…と
思ったのに



雨かよ…

…ははっ

明日の面接
通ったら

くるみさんに…







いえ…

明日は朝
早いので…



就活応援
ボランティアの

柊くるみと
申します



「俺だけ」
じゃ…



別に

ザアアア

アア…



俺は
「特別」なんか
じゃない…

わかってた
はずじゃ
ないか…















すぐに

恋に
落ちちゃった
んですよ

ああ
ああ



綺麗で
輝いていた

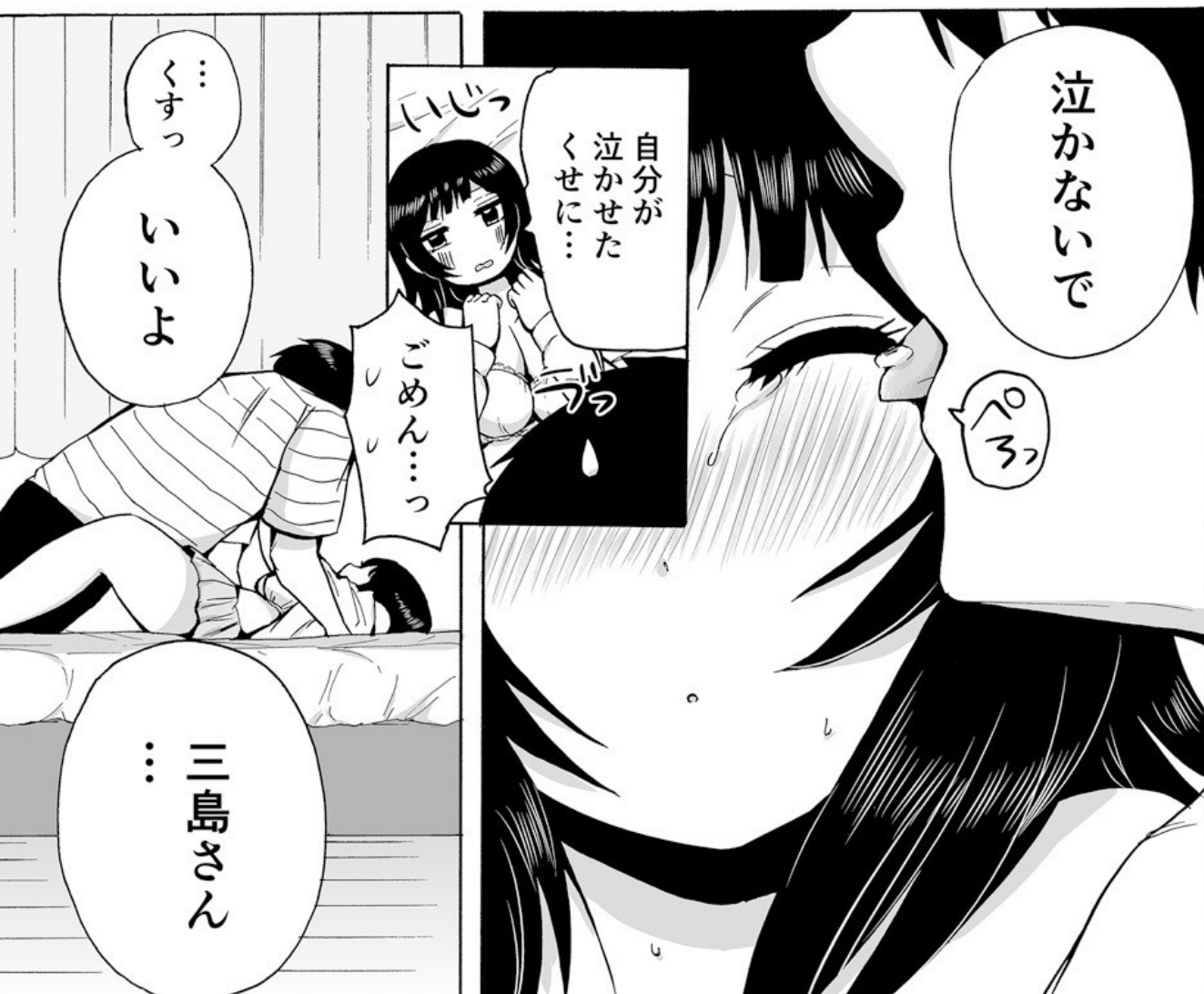
思い出した

俺とは
正反対の
光のようで……



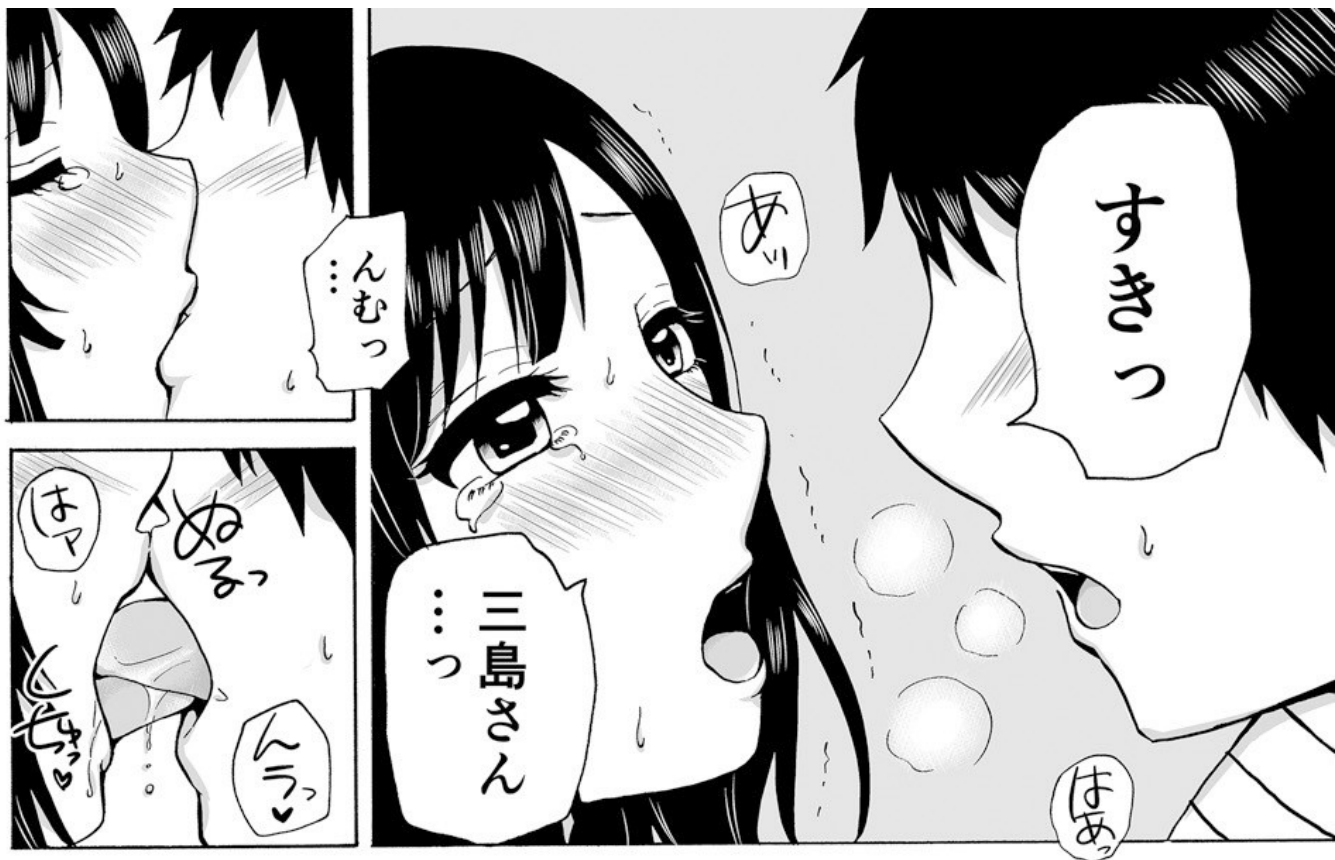
俺は
あの時……

そう

















後姿しか
見てなくて
気付かなかった…

さあ

てか大学あるから
終電で
帰ってたのか

ごめんね
くるみさん…

怖かったよね

俺
ひどいこと
しようとした…

……

しかもせつかくの
最終面接の
チャンスだって…

はあ…

うーん…
のう

やっぱり俺って
ダメ野郎だな…





やるしかねえ！ (3)

～彼女とのえっちな就活～

著者：雪國 発行：株式会社 六式

●本書の無断転載・複製等は著作権法上の例外を除き、
如何なる媒体においても禁止されております。